

学びいっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい
平野学校ファーム

蓮田市立平野小学校

1 はじめに

蓮田市は、埼玉県の県南東部、都心から40キロメートルの圏内に位置し、通勤・通学等の交通に便利な一方、元荒川や黒浜沼などの豊かな自然環境に恵まれた街である。本校は、明治9年に上平野小学校として創立され、今年、143周年を迎える大変歴史ある学校である。3世代、4世代が本校と関わりを持つといったケースも珍しくない。長い歴史の中で培われた文化を大切にしている学校である。学区の多くが、田畑に囲まれたのどかな田園地帯となっている。学校周辺も田畑に囲まれた、自然豊かな教育環境となっている。また、本校は「埼玉県みどりいっぱい校庭促進事業」で校庭を芝生化している。次世代を担う子供たちに幼い頃からみどりとふれあう環境を整え、学校ファームと校庭芝生化を生かした教育活動を進めている。

2 活動目的

学校ファームを活用した体験活動は、教科等の目標を達成する中で位置づけた。取組のねらいとしては、以下の通りである。

- ① 「生命尊重」の心の醸成
- ② 児童の学習意欲の高揚
- ③ 望ましい勤労観の育成
- ④ 地域との連携・協働の推進
- ⑤ 食育の推進

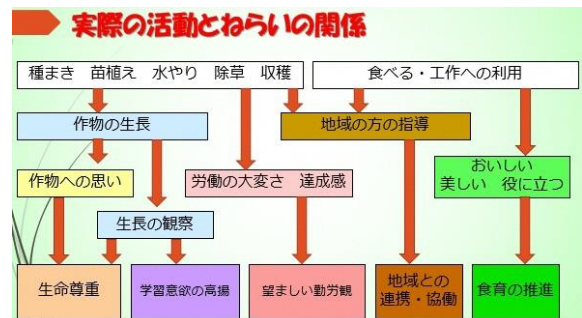
また、活動あって学びなしとならないように、実際の活動とねらいの関係性を明確にするために、図1にまとめ全教職員に共通理解を図った。

3 活動の概要

(1) 活動内容

- 教育活動への位置づけ

教科等において、どのような視点で学習に関連付けていくかを明確にした。学校ファームの活動を確実に実施していくため、年間指導計画に活動を位置づけて取組を行った。
(参照：教育活動への位置づけ)



(図1 実際の活動とねらいの関係)



教育活動への位置づけ

生活科

植物を育てることにより、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもつなど、植物を大切にすることができるようにする学習に関連付ける。

総合的な学習の時間

自然体験やボランティア活動などの社会体験、生産活動などの体験活動などにより、問題解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる学習に関連付ける。

特別活動

学級活動、児童会活動、学校行事のそれぞれに農業体験活動を関連付ける。

理科

植物を育て、成長やその条件について学ぶなどの学習に関連付ける。

(教育活動への位置づけ)

- 推進のための組織体制

本校では、PTA や学校応援団の協力を得て学校ファームの実践を推進してきた。推進のための組織体制は図2に示したとおりである。学校・地域・家庭を結ぶこの学校ファームは、本校にとって大変重要なものとなっている。



(図2 組織体制)

- 活動内容

図3に示したものが本校の栽培計画である。植え付けから収穫までの期間を考慮し、年間を通して様々な農業体験ができるよう栽培する作物を選定した。

(図3 栽培計画)

(2) 活動の特色

- 学校ファームを活かした学習

学校ファームにおいて、全児童が農作物を栽培した。栽培に際しては、兄弟学年での苗植え、水やり、除草作業など異学年と交流させることで縦割り活動の充実を図りつつ、栽培のよさや難しさを味わった。収穫時には、地域をあげてその作物の収穫祭を行った。収穫祭では、保護者や地域の方々を招待し体育館で会食した。集会の中で、地域のお年寄りに昔遊びを教わったり、交流したりすることができた。収穫の喜びを感じるとともに、学校ファームに対する関心がより高まった。



(3) 取組における工夫

本校の給食は、自校式となっている。このことを生かし、児童が育てた果実・作物を給食の食材として活用し、児童からのレシピも取り入れながら、調理し、全児童で食した。学校ファームにおいての農作物栽培を通して、学校・家庭・地域の連携を強化し、開かれた学校づくりを推進しながら、食育の充実も図ることができた。



4 成果

学校ファームを活用した取組により、農作物を育てる仕事への関心や身近な自然・環境への関心を高めることができた。また、各教科・領域での学習効果の高まりもみられ、「学びいっぱい」の学校ファームの実践になった。さらに、食べ物を大切にする気持ちや勤労的な気持ち、協力的な気持ち、生命尊重の態度が育ち、「やさしさいっぱい」の学校ファームとなった。



5 課題

本校は児童数の減少が見込まれ、同時に教職員数も減少していくため、現状のままの活動では、学校ファームの維持が難しくなるという課題がある。そこで、長く本校に関わっている地域性や、兼業農家が多いという地域の強みを生かしながら、地域と連携した学校ファームを一層推進していきたい。今後も学校ファームを通して、学校だけでなく家庭や地域も「元気いっぱい」にしていきたい。